

平成20年度帰国隊員報告会(於:国際協力機構研究所)

鳴門教育大学 教員教育国際協力センター
講師 松崎 昭雄

日本国内での実践知を反映したハンズオン素材の集約

課題実施機関:鳴門教育大学 教員教育国際協力センター
課題代表者名:服部 勝憲

経緯

平成19年度「国際協カイニシアティブ」教育協力拠点形成事業
派遣現職教員の活動の幅を広げるハンズオン素材とその活動展開モデルの開発

目的

- ◆ 現職派遣教員を始めとする協力隊員により開発・活用されたハンズオン素材の収集及び評価・改良
- ◆ 他地域の隊員が即時的に利用可能とするためのハンズオン素材の活動展開モデルの開発
- ◆ 成果の「国際協カイニシアティブ」ライブラリへの登録による派遣隊員への支援体制の充実

※ハンズオン・・・直接手に触れる、実践的な、体験的な

成果

目的

方法

- ◆ 国際教育協力を携わる大学教員をはじめとする活動実施者によりハンズオン素材に対する評価・改善をおこない、その質的向上を図る
- ◆ 各大学等で実施されている教育協力事業において開発されているハンズオン素材を集約する。
- ◆ 隊員からのニーズに応えるべく、ハンズオン素材の充実を図る
- ◆ 隊員が現地教員(カウンターパート)と情報を共有する視点から、集約したハンズオン素材を可能な範囲で多言語に翻訳する。

今年度の活動

- ◆ ハンズオン素材に対する評価の視点を策定



- ◆ 新たに開発したハンズオン素材を活用した授業実践(図工, 美術)
- ◆ 現地で進行中の実践事例の調査(算数, 理科)



ハンズオン素材入力フォーム

| | |
|--------------------------------|--|
| タイトル | ペットボトルシャワー (Ser:1661ing, C&A) |
| 種別 | 物理 |
| 年度 | 日本の標準時区に合わせて記載。過去5年以内の標準時区に於けるもののみ記載(2011) 西暦 (アメリカ) |
| 担当者 | 矢野 庄 |
| 種別 | 理科 |
| 対象学年 | 小学生の理科、中、高校生理科、看護、音楽、英語 |
| 必要資料 | ① 紙はくやろ紙(ペットボトル 500ml)の容器の両面に②-①の箇所を切り取る。 ② 水を入れたバケツに、ふたをしていない側のペットボトルを挿しこむ。 ③ ペットボトルにふたをして取り出す。(水がもれないことを確認する) ④ ふたをゆるめると、水がシャワーのように飛び出す。 |
| 教材の作り方 | |
| 教材の使い方の 授業の流れ | 水が飛び出す様子を見せ、目に見えない力が働いていることを確認すること。また、水が飛び出す様子を見せ、目に見えない力が働いていることを確認すること。また、水が飛び出す様子を見せ、目に見えない力が働いていることを確認すること。 |
| 指導するポイント | 指導のポイント(授業の進め方など) |
| 留意点 | 指導のポイント(授業の進め方など) |
| Origin of 'ser' (英辞に引いたプリントより) | Do you know who thought about 'ser' first? It was Aristotle (384-322). He was ancient Greek philosopher. He was certain of the existence of a substance called 'ser' in air when he was thinking about the working of apparatus. The invisible material named 'ser' by him, 'ser' in Greek means 'to be'. The word of 'ser' we usually use originates from 'ser' he named. |



最終成果物に向けた進捗状況

◆ 海外渡航調査

- 小・中一貫校において授業を実施
- JICA事務所と隊員を交えての協議

- 大学を中心に実践されている活動の紹介
- 活動展開モデルの確認とハンズオン素材に対する改善について意見交換

◆ 新たに収集したハンズオン素材を「国際協力イニシアティブ」ライブラリへ追加登録

◆ 既に登録済みのハンズオン素材および活動展開モデルの見直し